

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2376200230		
法人名	有限会社おおぎもと		
事業所名	グループホームJO・さざんか第2		
所在地	豊田市大蔵町花立11-7		
自己評価作成日	平成30年10月31日	評価結果市町村受理日	平成31年 2月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2376200230-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成30年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは、県道沿いにあり、田んぼと山に囲まれた自然豊かな環境化にあります。利用者の個々に合わせて出来ることを見つけ、日常において無理なく取り組んで頂いている。洗濯物を干し、畳んだり、紙をちぎったり、紙をはさみで切ったり、ポーとして過ごす事が無いように心掛けている。身体機能の維持だけでなく、役割があるという思いが、認知機能の悪化予防や維持向上に繋がっている。また、こども園や小学校、老人クラブの来訪はあり、地域のつながりを大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山あいののんびりとした雰囲気の中、職員は思いやりを持って利用者の心を感じ取り、ホーム理念である「怒(じょ)」の実践を行なっている。共に洗濯や調理、片付け等の家事や脳トレや折り紙等のレクリエーション、散歩や季節の行楽等の外出をして利用者の心地よい暮らし方を見つけ支援をしている。職員が笑顔を決して絶やさず利用者との冗談を言い合う等、明るい雰囲気の中で利用者にも笑顔が生まれ、利用者同士にも思いやりが生まれている。また、生活が単調にならないようにボランティアの受け入れや小学生等との交流も積極的に行なっている。利用者はホームのある地区出身者が多く、またホーム事業者も当地区に長年住む住民である。つながりを最大限に活かしていつまでも自分らしく暮らせるように日々努力をしているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	[怒]の精神を基本とし、毎朝業務前に管理者と職員は、基本理念を唱和、共有し、業務に入っている。	ホームの名称にも冠する「怒(じょ)」は感謝する、思いやりを持つなどを意味し、職員は理解をしている。利用者に寄り添うケアに努め、振り返って行動を見直すよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業主は、地域の一員として当地区に長年暮らしている。又従業員も当地区の者が大部分なことから、浮いてしまうこと無く、利用者も当地区の方も多いため溶け込んで暮らしている。	地域の小学校から年3～4回小学生の来訪があり、学芸会にも招待され出かけている。秋祭りの子供神輿の訪問は恒例行事となり、今年もおひねりを渡して紙吹雪で歓迎している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩や当地区の催しなどの出席の機会などから地域の方に溶け込む様に働きかけ、理解して頂くように支援させて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議からの助言や意見を頂き、それらを乗務の中に生かすように努めている。会議内で、活性化の為、認知症やグループホームについての豆知識等研修内容を盛り込んだ。	近隣の同法人のグループホームと合同で利用者、家族、地域代表、行政、知見者が参加して年6回開催している。導入で管理者が日常的な質問をして参加者全員がそれに応じる等発言しやすい雰囲気になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	普段、市とは必要以外のやり取りは無いが、介護相談員の受入れを通して連携を行っている。	運営推進会議に地域包括支援センターの参加があり、ホームの理解者として相談できる体制が整っている。徘徊者保護の模擬訓練に、管理者は徘徊者役として協力をしている。市や社協の勉強会に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	家族の方に承諾を得ながら、安全上やむを得ず身体拘束をさせて頂くこともある。しかし、見守りを基本とし極力拘束をしない介護を心掛けている。	玄関は施錠せず、外出の希望には職員が同行している。ホーム内では車椅子利用者も自由にエレベーターを利用しており行動に制限はない。利用者の安全確保のためやむを得ず行う拘束は、家族に説明し、同意を得て最小限で対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回ミーティングの機会に「ストップ・ザ・虐待」の研修を入れながら、共通の認識で気を付けている。虐待に至るスタッフのストレスや疲労や日常の心身の状態に気を配らなければならない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族とも話し合い、成年後見制度を利用する事もある。社会資源を十分に利用者様に生かすことが出来る様に、常に学ばなければならない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や要事項の説明などをして、利用者や家族の不安や疑問をお聞きし、理解し納得をして頂くよう努力をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でご家族の出席や普段の来訪の折、日常においても意見を頂くことが出来る様に、門戸を開いておくという努力をしている。	家族の来訪時や運営推進会議で意向を聞き取っている。家族からの「銭湯に連れていきたいから入浴できるようにしてほしい」との要望には、職員間で話し合っ即時対応した。今期はホーム便りを再開している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は常時常駐している。また気安さを以て何でも話せる雰囲気を出し、意見や提案を聞く努力をし反映させる出来る様になっている。	毎月の職員ミーティングや日常のケアの中で職員意見の聞き取りを行なっている。朝の申し送りでは、参加職員が必ず一言発言するなど、意見の出やすい環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常時常駐していることから、一人ひとりの介護の実際と力量を把握し、熟知し、スタッフへの指導に当たっている。介護業務を通し学ぶ機会と捉え、やりがいや向上につなげられるように指導している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は常駐していることから」、スタッフ一人ひとりの介護の実際や力量を把握している。法人外研修に際しては、遠距離研修であり、参加は少ない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流の機会は少なく、切磋琢磨の機会を多く欲しいと思っている。市内など近距離での交流、研修が好ましい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	代表者は常駐していること、またスタッフからの気づきや報告などから、スタッフと相談しながら本人の安心や安寧の気持ち作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の来訪の折などに、お家の様子をさりげなく会話の中から掌握するよう努めている。また代表者の知り得ているノウハウを出来る限り、話すように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス利用は介護保健上無理と捉えられているが、どうして暮らしていきたいのかを、感知していく努力をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	年単位のお付き合いであり、なんでも言い合えるフレンドリーな関係であると思っている。「親しき仲にも礼儀あり」の諺を守り、礼節は大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所の折、又電話での連絡時など、ご家族と連絡を取りながら、に利用者様が安心して暮らして頂くことが出来る様に努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブや外出の際に実家に寄ってみる、隣近所の方を見て話をするなどお互いに共通の話題がああ持て話が出来る様に、関係作りをしている。	かつての同僚や近所の友人が利用者のもとに訪れたり、馴染みの美容室へ通ったりと、関係の継続を支援している。家族の支援で、お盆に一時帰宅したり法事に出席する利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人が孤立してしまわない様に、寂しくない様に、利用者様同士話しが出来る様関係作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所をされ家庭に帰られた方も関心を持ち、近所の方に様子をお聞きしたり、本人に会い元気を喜び合ったりして相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室は、利用者様の暮らしやすいように使用して頂いている。本人の希望に出来るだけ沿うように努めている。	入浴時など利用者とは1対1になる時間を大切に、利用者の言葉を良く聞き、思いの把握に努めている。勤務年数の長い職員が多く、利用者の生活歴や好みを把握しており、希望に沿った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様は、この境界隅の方が多い。スタッフも地域の方が多く、方言が飛び交い安心の間柄である。生活暦はスタッフと大差ないので生活暦も共感できている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人自由に過ごして頂く様にしている。毎日バイタルサインのチェックを行っている。その方のADLに合った生活を送れるように心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のミーティング時、細かいケアプランを共有し意見を出し合い、その方が元気に安心して頂くように努めている。	毎月計画作成担当者がモニタリングを行い、職員ミーティングで話し合って職員意見を集約している。毎月家族に計画書を送付して意見や要望を募り、計画の見直しは半年に1回行なっている。	サービス担当者会議の開催等、把握した利用者や家族の思いがさらに反映できる仕組みづくりに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護記録様式に沿って記録している。勤務者は記録を読み、状態の把握に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方の認知症の行動障害に合うように工夫し、グッズを作成し、スタッフ側の勉強にも繋がっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア様、カラオケ、踊り、学校、保育園など、多くの方の協力で毎日変化があり、豊かな暮らしとなっているのではないかと考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院、開業医など、その方のかかりつけ医を希望通りの受診のお手伝いを行っている。	看護職員が健康管理を行ない、24時間対応のホーム協力医が往診している。また利用者か家族が希望するかかりつけ医の往診もある。その他の専門科の通院等は家族の都合に合わせてホームで支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の常駐や准看護師のスタッフもおり、健康状態を常に把握し、見極め早めの受診、看護を心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院側と相談しながら、その方やご家族様が大きく不安にならない様に関わっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様と十分に話し合いを行い、事業者内で出来ることはこれ以上無いかと事業所側も模索しながら、その方が安全、安心して暮らして頂けるように関わっている。	入居時に利用者や家族の意向を聞き取り、医療行為がない場合は最期まで看るとの方針を伝えている。状態の変化をその都度家族と話し合い、意向に変わりはないか確認している。看取りの勉強会を行ない、医師、職員、家族と方針を共有して支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	労働時間の関係上、また非常勤者で勤務する事が多いので、中々スキルアップや周知は難しい。代表者(管理者)常駐から、その判断をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月防災訓練において避難訓練も行っている。消防署から年1回の指導も継続している。土砂災害マニュアルを作成し、災害対策の確認を行った。	ホームは土砂災害警戒区域に立地しており、避難計画を作成して市へ提出している。毎月利用者を戸外へ避難誘導する訓練を行なっている。また、防災システムの扱いを学ぶ勉強会を行なっている。	定期的な救命講習の受講等、消防署の活用に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	苗字かお名前をお呼びすること、「ちゃん」呼びはしない等、その方の尊厳や人格は重視している。	言葉遣いに気を付け、利用者を否定しないよう努めている。利用者のペースを乱すことはせず、笑顔で接して利用者の笑顔を引き出している。入浴時や排泄支援には羞恥心に十分配慮し、入室時には必ず声掛けしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方の承諾を得る、納得して頂く、自分で決めて頂くように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の規則正しい生活に沿いながら、希望される場合は、その方のペースに合わせていく。その方が元気に安心して暮らして頂くことを基本に考えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の希望に添い散髪を行っている。受診時や外出時は、身だしなみに気を付けている。高齢になってもお洒落心は大切であると考えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の個性を尊重した食事を提供している。出来るだけ準備や片づけを一緒にして頂く。	配食材業者を活用し、指定のメニューで栄養バランスに配慮した食事が提供されている。誕生日には赤飯やパンケーキでお祝いしている。利用者の希望のメニューは、家族支援の夕食や喫茶で実現している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ミキサー食の方、お粥など、その方に応じて工夫し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の方、歯磨きの方など、その方に合致した方法で口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	そのかたに応じた方法で排泄ケアを行っている。	時間での誘導や様子を見ての声かけと、その人に合わせた支援を行なっている。おむつに頼ることなく夜間もトイレへ誘導している。必要時にチェック表を活用し、状態によっては医師に相談している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	多くの食材、特に野菜を多く使用している。排泄記録をつけ、排泄状況を管理している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	勤務の都合上、中々個人の希望を叶えることは難しい。安全上の問題から夜間帯の入浴はできない。	3日に1度の入浴と毎日の足指の消毒をしている。ゆず、菖蒲の季節湯や入浴剤、談笑する等、入浴を楽しむ工夫をしている。入浴を拒む利用者には無理強いせず、日を変えて臨機応変に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	布団干し、シーツや枕カバーの洗濯を行い、気持ちよく睡眠して頂けるように気配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬は確実に服用できるように、分包、分配し管理している。また薬の効能書はファイリングし、いつでも見られるように管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	娯楽、散歩、ドライブ等入れながら、生活に変化を持たせるように工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご本人が希望されれば出来る限り、希望に添うよう関わっている。	気候の良い時期は車椅子利用者を含め交代で散歩に出かけ、近くのお地藏様を参拝している。ドライブや企画外出、個別の買い物支援と、可能な限りの支援をしている。外出が困難な場合、玄関先で体操をしたりティーパーティーを開く等、外気に触れる機会を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理できる方は管理して頂き、管理できない方は、ご家族の管理となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に合わせ、その方に合った方法で対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整然とされ、障害物がないように気を配っている。清潔には特に気を配り、清掃や空気清浄機の設置と気を配っている。	緑豊かな農村地帯に立地しのみどりとした雰囲気の中、一日中懐かしい音楽が流れるリビングでは利用者が自由に過ごしている。利用者が自室で育てた観葉植物の差し葉が共有の洗面所を飾っている。空気清浄機を常に利用し、感染症予防に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の様子を見ながら、楽しく毎日を過ごして頂く様にご本人の納得を得て、席替えを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家からご本人が使っていた物を持ちこみ、使用して頂く。ベットの位置、家具の配置など、その方が暮らしやすい空間を提供している。	箆箆やテレビ、写真など馴染みの品々が持ち込まれ、衣替えは職員が行なっている。お気に入りのぬいぐるみや小物を沢山飾り、観葉植物を置いて水やりをする利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人出来る事はして頂き、できる喜び、お礼を言っていただく喜び、張り合いなど、生きているという喜びを思っ頂く様に関わっている。		